
公衆衛生看護方法論 I

岩村 龍子 教授
岡本 光代 准教授
辻本 宏美 助教

2 年次後期・必修

1 単位・30 時間

【概要・目的】

地域で生活する人々の健康課題に応じて、個人・家族・集団・組織を対象に展開する公衆衛生看護の技術と方法を理解する。

【到達目標】

- 1) 人々の健康生活上の援助としての保健指導の目的・方法・特徴を説明する。
 - 2) 地域における個人・家族および集団への支援技術を概説する。
 - 3) 人々の主体的・能動的な保健行動を引き出すための展開方法および活用できる理論を説明する。
 - 4) 住民グループや地域組織といった幅広い多様な人材と連携・協働して展開する保健師活動の目的・意義・方法を説明する。
 - 5) 地域で生活する人々の健康課題に応じて、様々な公衆衛生看護技術を用いて個人・家族・集団・組織を対象に展開する公衆衛生看護活動のあり方を考察する。
-

【内容・スケジュール】

- 1) 公衆衛生看護技術の特徴
 - 2) 公衆衛生看護の中核をなす保健指導
 - 3) ～5) 健康相談（講義・演習）
 - 6) ～7) 健康診査（講義・演習）
 - 8) ～10) 健康教育（講義・演習）
 - 11) ～12) 家庭訪問（講義・演習）
 - 13) ～14) 住民グループ支援（講義・演習）
 - 15) まとめ
-

【評価】

筆記試験（60%）、演習内容・記録（30%）、出席状況および参加態度など（10%）により評価する。ただし、筆記試験は6割以上の得点を必要とする。

評価責任者 岡本光代

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第3版」日本看護協会出版会

【推薦参考図書】

村嶋幸代編集「公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社

【その他】

- ・事前に教科書の該当ページを読んで履修すること。